東日本大震災の話

令和３年３月１１日
玉 川 第 一 小 学 校

給食の時間ですが，食べながらでもいいので，校長先生の話に耳を傾けてください。
まずは，この音を聴いてください。（キンキュウジシンソクホウデス･･･）
これは，地震の発生を事前に知らせる，緊急地震速報というものです。一度は聞いたことはありますね。どんな気持ちがしますか？校長先生には，こわくて，恐ろしいくて，とても切ない音に聞こえます。今から丁度１０年前のこの日から，この音がしばらくの間鳴り続けました。そう，東日本大震災があったからです。２０１１年３月１１日（金）午後２時４６分。この日と時間を，私たちは決して忘れることはできません。

１０００年に一度と言われる，これまで最も大きな地震が，私たちの住む東北地方を中心とした東日本で，この日起こりました。震源地は福島県沖，マグニチュウード９，ゆれの大きさは，玉川村で震度６弱，とても立っていられない大きなゆれです。建物は倒れ，道路は崩れ，海沿いでは，その後に襲ってきた津波で，多くの人が命を奪われました。学校の中にも海水と一緒に様々なものが入り込みました。避難途中に逃げ遅れた子ども達が波にさらわれました。１０年たった今でも，土砂の下敷きになったり，津波で流されたりして，見つかっていない人は２０００人以上と言われています。１０年前の出来事ですから，低学年のみなさんはまだ生まれてはいませんでした。

校長先生はこの時，当時の６年生３７名と玉一小の体育館にいました。今，学校のお手伝いをしてくださっている，鈴木勅希さんや石井寛希さんも一緒でした。ゆれは数分間続きました。体育館のガラスが一斉にガタガタと音を立て，上から吊るされているライトが，右に左に大きくグラグラと揺れ，今にも天井にぶつかりそうでした。放送も壊れてしまい連絡は全く入らず，悲鳴を上げる子ども達もいました。「逃げるぞー走れー。」と大声を出して避難させたのは，つい昨日のことの様です。その日は雪も降り出す，とても寒い日でした。幸い，玉一小や玉川村では大きな被害はありませんでした。ただ，すぐに学校が休みになったので，卒業式が行えるかどうか心配でした。

この日，何万，何十万，という人が様々な場所で，同じような体験をしました。命を落とした人，けがをした人，家族とはぐれた人，古里を追われた人。大人も，お年寄りも，もちろんみなさんと同じ小学生も，生まれたばかりの赤ちゃんもいたかもしれません。
同時に，たくさんの命も助けられました。ボランティアの人たちが，ぐちゃぐちゃになった建物を片付けたり，家を無くした人に温かい食べ物をこさえてくださったりしました。役場の人たち，警察や消防署，自衛隊の人たち，地域の消防団のお父さん，婦人会のお母さん，みんなが協力して私たちの命と生活を守ってくださいました。

私たちの命は一つしかありません。校長先生が今も思うことは，あのとき玉一小の子ども達が命を落とさなくてよかったということ，死ななくてよかったということです。そして，その大切な一つの命を守る努力を，これからもしなくてはいけないということです。

「風化」という言葉があります。これは石や土が，長い間風にさらされて形が変わり，やがて無くなってしまうことを表した言葉です。私たちの記憶や思い出もそうですが，時間が経つと忘れてしまうことがたくさんあります。しかし，私たちは決して忘れてはいけません。１０年前の今日，大きな地震があったこと。たくさんの人が犠牲になり，たくさんの命が救われ，たくさんの人々の努力で，今，私たちは元気に生活できていることを，決して「風化」させてはいけません。

今日は，学級の友達と，先生と家族と震災について，災害について，命について考える一日にしてほしいと思います。ちなみに，できるかどうか分からなかった当時の玉一小の卒業式は･･･，さてどうだったと思いますか？これは勅希さん寛希さんに聞いてみてください。
最後に，一つお願いがあります。今日の午後２時４６分に，村の広報無線でお知らせが入りますから，犠牲になった方々のことを思って一緒に黙とうしてほしいと思います。

長くなりましたが，静かに聞いてくれてありがとう。お話を終わります。